

展覧会

芥川龍之介と美の世界 二人の先達-夏目漱石、菅虎雄

このたび、久留米市美術館では、「芥川龍之介と美の世界 二人の先達-夏目漱石、菅虎雄」を開催いたします。

「羅生門」や「蜘蛛の糸」などでおなじみの芥川龍之介（1892-1927）、「吾輩は猫である」や「坊っちゃん」などでこれもまたおなじみの夏目漱石（1867-1916）、二人が師弟関係にあったことはよく知られています。本展では、この二人に加えもう一人の人物、菅虎雄（すが・とらお 1864-1943）にも注目しました。漱石の親友であり、芥川の第一高等学校時代のドイツ語の先生でもあった菅は、ドイツ語教師として生涯を終えた人で、表舞台に立つことはありませんでした。しかしながら、書をよくし、書を通して二人と大きく関わっています。

本展は、二人の先達との触れ合いによって、作家として人間として成長していく芥川の眼を通して、大正から昭和にかけて大きく変化した芸術一般、特に美術世界をのぞいてみようとするものです。当時の文化背景をひもとくとともに、久留米に生まれ鎌倉で生涯を終えた菅の存在を、より広く知っていただく機会となることを願っています。

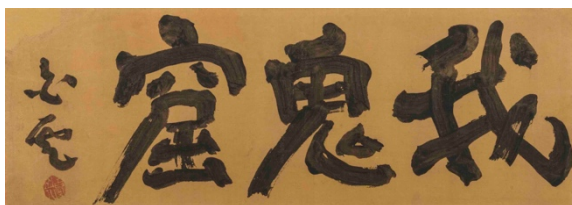
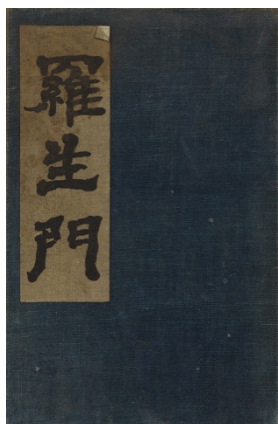
展覧会名	芥川龍之介と美の世界 二人の先達-夏目漱石、菅虎雄
会期	2023 年 10 月 28 日(土)～2024 年 1 月 28 日(日) 月曜休館（1 月 8 日は開館） *展示替を行います I 期: 10/28-11/26 II 期: 11/28-12/27 III 期: 1/4-1/28
作品数	約 300 点
会場	久留米市美術館
主催	久留米市美術館、西日本新聞社、テレビ西日本
特別助成	公益財団法人石橋財団
後援	久留米市教育委員会
入館料	一般 1,200 円（1,000 円） シニア 900 円（700 円） 大学生 600 円（400 円） 高校生以下無料 ※石橋正二郎記念館もご覧いただけます。※前売券 900 円あり ・障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者 1 名は無料となります ・（ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上 ・開館記念日の 11 月 19 日は入館無料
開館時間	10:00-17:00（入館は 16:30 まで） *11 月 25 日(土) は 19:00 まで延長決定（入館は 18:30 まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、在来線快速で 40 分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館（公益財団法人久留米文化振興会） 担当：森山秀子、佐々木奈美子 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131 / FAX0942-39-3134 https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/

※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、SNS 等によりお知らせいたします。

展覧会の見どころ

注目ポイント1 文豪2人と深いつながりを持っていた菅虎雄とは!?

菅虎雄は久留米生まれ。学生時代に知り合った夏目漱石とは「最も親しかった」とも言われています。漱石から何かと頼られ「坊っちゃん」の舞台となる松山の中学校や、熊本の第五高等学校の就職の世話をしたのも菅でした。第一高等学校でドイツ語を教える「名物教師」として、また、専門家に匹敵する書の腕前で知られました。芥川龍之介も高校の教え子の一人です。芥川はまた大学在学中に漱石の「木曜会」に顔を出すようになり、小説家としての背中を押され、生涯、漱石を師と慕いました。漱石の没後まもなく出版した初の書籍『羅生門』の題字は菅虎雄が書きました。



1) 菅虎雄《我鬼窟》1919年 日本近代文学館 *2期

3) 菅虎雄（書・刻）
《第一高等学校門札》1938年
東京大学駒場博物館

2) 芥川龍之介『羅生門』（阿蘭陀書房、1917年） みやこ町歴史民俗博物館

注目ポイント2 芥川龍之介が愛した美術たち

大正時代の只中に生きた芥川は、時代の文化活動にも様々なに接していました。折に触れて美術鑑賞や観劇に出かけていたことは、友人たちに感想を書き送った手紙や、自作の小説の中からはうかがうことができます。当時の美術界に關していえば「文展」に加えて「二科会」や「フュウザン会」など様々な団体が生まれ、画家たちがそれぞれの表現を模索していました。必ずしも万人に受ける作品を褒めない芥川の姿勢は、師の漱石とよく似ています。本展では芥川が見つめた美術品や、漱石や芥川の小説にインスパイアされた絵画・彫刻、さらに、彼らが自ら筆をとった水彩画やスケッチなどを紹介します。



4) 小杉放庵《水郷》1911年 東京国立近代美術館



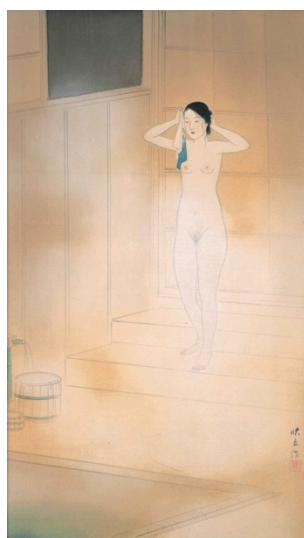
5) 夏目漱石《風月相知》個人蔵（日本近代文学館寄託） *1, 2 期



6) 石井柏亭《滞船》1913 年 和歌山県立近代美術館 *3 期



7) 芥川龍之介《水虎晩帰之図》1923 年
山梨県立文学館 *1 期



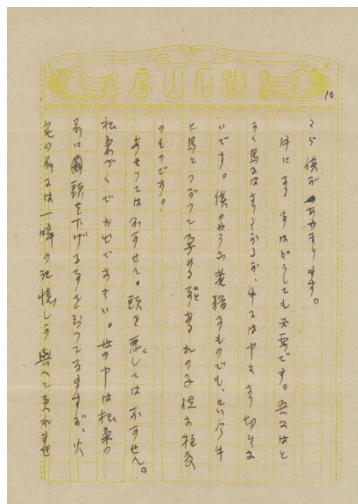
8) 松岡映丘《湯煙》1928 年
練馬区立美術館寄託 *1 期



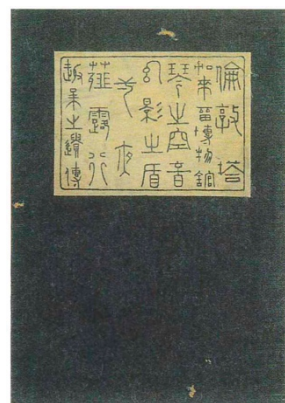
9) 清水良治《蜘蛛の糸(芥川龍之介より)》2004 年 石川県立美術館

注目ポイント3 彼らの息づかいを伝える原稿や書簡

夏目漱石の書籍は画家・橋口五葉や津田青楓の装幀により、それ自体が美術品のような高いデザイン性を誇っています。芥川も自分の本で漱石の装幀をちょっと真似したこともありましたが、本展では二人



の初版本を展示する他に、「鼻」や「或阿呆の一生」など、貴重な芥川龍之介のオリジナル原稿を、各地の文学館の協力を得て紹介します。芥川、漱石、菅虎雄をめぐる交友関係や人となりを伝える、活字となる以前の“書いた人”の存在を感じられる書簡類も、生原稿とともにぜひご覧ください。



右) 夏目漱石、橋口五葉(装幀)『漾虚集』(1906 年) 野田宇太郎文学資料館 *3 期
左) 夏目漱石《芥川龍之介、久米正雄宛書簡》1916 年 8 月 24 日 日本近代文学館 *3 期



10) 岸田劉生《第2回フウザン会展会場装飾画》1913年 笠間日動美術館

関連イベントのご案内

美術講座

① 「夏目漱石と菅虎雄」

2023年11月3日（金・祝）14:00-15:30

講師：原武 哲 氏（福岡女学院大学名誉教授）

② 「芥川文学の魅力-その美的構造-」

2023年11月25日（土）14:00-15:30

講師：宮坂 覺 氏（フェリス女学院大学名誉教授）

③ 「芥川龍之介 旧居跡地に刻まれた記憶」

2023年12月2日（土）14:00-15:30

講師：木口 直子 氏（田端文士村記念館研究員）

会場：久留米市美術館 多目的ルーム

定員：50名（要申込、先着順）

[お申込]参加したい講座の日時（11月3日など）もしくは番号（講座①など）と参加を希望される方の氏名（2名まで可）と代表の方のご住所、氏名、連絡の取れる電話番号を記入の上、ハガキまたはFAXで久留米市美術館へ。定員に達し次第締め切ります。

ギャラリートーク（全2回）

2023年11月18日（土） / 12月23日（土）

時間：14:00-15:00

集合：美術館2階エントランス（申込不要、要本展覧会チケット）



久留米市美術館

KURUME CITY ART MUSEUM
ISHIBASHI CULTURAL CENTER

PRESS RELEASE

2023. 9. 24.

朗読とギターで奏でる物語

「聴く・芥川龍之介」

2024 年 1 月 8 日（月・祝）15:00-17:00

出演：小島 香奈子 さん（朗読家）

岩松 知宏 さん（クラシックギタリスト）

演目：「蜘蛛の糸」「鼻」「沼地」ほか

会場：石橋文化会館小ホール

定員：70 名

（要申込、要本展覧会チケット[半券可]）



芥川龍之介《「鼻」草稿》（部分）1915 年
山梨県立文学館 *2 期

〔お申込〕11 月 30 日（木）まで

参加を希望される方の氏名（2 名まで可）と

代表の方のご住所、氏名、連絡の取れる電話番号を記入の上

ハガキまたは FAX で久留米市美術館・朗読係へ。応募多数の場合は抽選。

結果は 12 月 8 日（金）までに応募者全員にお知らせします。

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず 1 部お送りください。